

(様式第9)

富大医総第188号
平成20年10月3日

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立大学法人 富山大学
学長 西頭 徳三

国立大学法人富山大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成19年度の業務に関して報告します。
記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	70人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	249人	74.6人	323.6人	看護業務補助	25人	診療エックス線技師	人
歯科医師	10人	8.8人	18.8人	理学療法士	3人	臨床検査技師	32人
薬剤師	29人	人	29人	作業療法士	1人	衛生検査技師	人
保健師	人	人	人	視能訓練士	2人	その他	人
助産師	22人	人	人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	404人	11.2人	415.2人	臨床工学技士	7人	医療社会事業従事者	2人
准看護師	人	人	人	栄養士	人	その他の技術員	30人
歯科衛生士	2人	人	2人	歯科技工士	人	事務職員	93人
管理栄養士	5人	人	5人	診療放射線技師	24人	その他の職員	人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	533.4人	9.7人	543.1人
1日当たり平均外来患者数	1144.3人	43.5人	1187.8人
1日当たり平均調剤数	670.3剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・無	人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	有・無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・無	人
胎児心超音波検査	有・無	4人
インプラント義歯	有・無	3人
顎顔面補綴	有・無	人
顎関節症の補綴学的治療	有・無	人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・無	人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・無	人
光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・無	人
経皮的レーザー椎間板減圧術	有・無	人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・無	人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・無	人
CTガイド下気管支鏡検査	有・無	人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・無	1人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・無	人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・無	人
三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・無	人
HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・無	人
子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・無	人
腹腔鏡下肝部分切除術	有・無	人
悪性腫瘍に対する陽子線治療	有・無	人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・無	人
成長障害のDNA診断	有・無	人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・無	人
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・無	人
声帯内自家側頭筋膜移植術	有・無	人
骨髄細胞移植による血管新生療法	有・無	人
ミトコンドリア病のDNA診断	有・無	人
鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・無	人
神経変性疾患のDNA診断	有・無	人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・無	人
重粒子線治療	有・無	人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・無	人
31P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・無	人
神経芽腫のRNA診断	有・無	人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・無	人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・無	人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	有・無	人
膝腫瘍に対する腹腔鏡補助下膝切除術	有・無	人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・無	人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・無	人
エキシマレーザー冠動脈形成術	有・無	人
活性化Tリンパ球移入療法	有・無	人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・無	人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・無	人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有・無	人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・無	人
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・無	人
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術	有・無	人
ケラチン病の遺伝子診断	有・無	人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・無	人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・無	人
末梢血単核球移植による血管再生治療	有・無	人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・無	人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・無	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・無	人
超音波骨折治療法	有・無	0人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有・無	人
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・無	人
膀胱水圧拡張術	有・無	人
色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・無	人
先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・無	人
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	有・無	人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	有・無	人
腹腔鏡下直腸固定術	有・無	人
骨移動術による関節温存型再建	有・無	人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション	有・無	人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法(腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍)	有・無	人
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人
自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断	有・無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・無	人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	有・無	人
先天性難聴の遺伝子診断	有・無	人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断	有・無	人
培養細胞による先天性代謝異常診断	有・無	人
腹腔鏡下子宮体がん根治手術	有・無	人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・無	人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・無	人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・無	人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・無	人
カフェイン併用化学療法	有・無	人
胎児尿路・羊水腔シャント術	有・無	人
筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・無	人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	人
内視鏡下甲状腺がん手術	有・無	人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・無	人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・無	人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・無	人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・無	人
副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・無	人

(注)1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

2 特定疾患治療事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
ベーチェット病	424人	ウイルス動脈輪閉塞症	85人
多発性硬化症	364人	ウェゲナー肉芽腫症	55人
重症筋無力症	198人	特発性拡張型(うっ血型)心筋症	272人
全身性エリテマトーデス	1422人	シャイ・ドレーガー症候群	156人
スモン	34人	表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人
再生不良性貧血	57人	膿疱性乾癬	24人
サルコイドーシス	359人	広範脊柱管狭窄症	46人
筋萎縮性側索硬化症	70人	原発性胆汁性肝硬変	212人
強皮症	700人	重症急性膵炎	2人
特発性血小板減少性紫斑病	97人	特発性大腿骨頭壊死症	89人
結節性動脈周囲炎	205人	混合性結合組織病	223人
潰瘍性大腸炎	672人	原発性免疫不全症候群	45人
大動脈炎症候群	158人	特発性間質性肺炎	92人
ピュルガー病	140人	網膜色素変性症	208人
天疱瘡	76人	プリオン病	0人
脊髄小脳変性症	179人	39.原発性肺高血圧症	57人
クローン病	336人	40.神経線維腫症	10人
難治性肝炎の劇症肝炎	13人	41.亜急性硬化性全脳炎	0人
悪性関節リウマチ	404人	42.バッド・キアリ(Budd-chiari)症候群	0人
パーキンソン病関連疾患	852人	43.特発性慢性肺血栓栓塞症(肺高血圧型)	0人
アミロイドーシス	51人	44.ライソゾーム病(ファブリー(Fabry)病含む)	10人
後縦靭帯骨化症	262人	45.副腎白質ジストロフィー	0人
ハンチントン病	0人		

合計 8659人

(注)「取扱患者数」欄は、前年度の年間患者数を記入すること。

3 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	○ 1.臨床検査部門と病理診断部門は別々である。	
	2.臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門又は臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1年間に55回開催	
部 検 の 状 況	部検症例数	40例
	部検率	15.75%

(様式11-A)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(平成19年度)

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
慢性肝障害に対する免疫療法と、脾臓切除に関する基礎的研究	塚田一博	第2外科	1,300千円	補 文部科学省化学研究費補助金 基盤C
食道癌細胞および正常食道上皮における機能性リボ核酸の発現と機能解析	嶋田 裕	第2外科	9,880千円	補 文部科学研究費補助金 基盤B
食道癌生検標本の遺伝子発現プロファイル解析による放射線化学療法感受性予測の臨床導入を目指した基盤的研究	嶋田 裕	第2外科	39,000千円	補 厚生労働科学研究費補助金
生殖免疫と腫瘍免疫の対比 -妊娠維持機構からみた腫瘍免疫学への対比-	齋藤 滋	産婦人科	2,900千円	補 科学研究費(基盤B)
宿主免疫細胞から攻撃されたアポトーシスに陥った細胞を組織学的に同定する方法の開発	齋藤 滋	産婦人科	1,000千円	補 科学研究費(萌芽研究)
遺伝子改変マウスの上皮性腫瘍発生モデルを用いた新たな癌治療戦略の開発	中村隆文	産婦人科	1,500千円	補 科学研究費(基盤C)
炎症から見た早産、妊娠高血圧症候群の新たな治療戦略	塩崎有宏	産婦人科	1,000千円	補 科学研究費(基盤C)
環境ストレス-胎盤形成-胎児オートファジーとアポトーシスによる細胞死の視点から	中島彰俊	産婦人科	1,700千円	補 科学研究費(若手研究B)
和漢診療の科学化に向けた生体非侵襲型血管機能評価検査法の開発	北島勲	検査部	2,000千円	補 平成19年度バイオクラスター形成促進事業
細胞チップを用いた新興感染症に対するヒト抗体の迅速作製法の開発	北島勲	検査部	1,000千円	補 文部科学省科学研究費補助金
精神遅滞関連遺伝子ATRX変異マウスを用いた記憶・学習障害と遺伝子制御異常の解明	北島勲	検査部	4,000千円	補 文部科学省戦略的創造事業
Real Time PCR法を用いた迅速な敗血症起因菌同定システムの構築に関する研究	仁井見英樹	検査部	2,000千円	補 平成19年度中谷財団研究助成
新規角化関連分子Hornerinの機能解析とヒト疾患における意義の検討	牧野輝彦	皮膚科	2,000千円	補 科学研究費 若手(B)
東洋の知に立脚した個の医療の創成	清水忠道	皮膚科	2,200千円	補 研究拠点形成費(COE)
心筋緻密化障害の遺伝子解析	市田 蒔子	小児科	3,000千円	補 文部科学省科学研究費補助金 基盤C
形態と機能画像を用いた統合失調症の客観的診断技術に関する研究	川崎康弘	神経精神科	900,000	日本学術振興会
統合失調症警告期の新しい診断法と早期治療法の開発: 認知機能と脳画像による検討	住吉太幹	神経精神科	900,000	日本学術振興会
脳画像解析と生物学的指標を用いた精神疾患の診断と治療効果の判定への応用に関する研究	鈴木道雄	大学院医学薬学研究部	1,200,000	厚生労働省
認知症の周辺症状に対する多価不飽和脂肪酸の生物学的マーカーとしての有用性	上原 隆	大学院医学薬学研究部	900,000	日本学術振興会

脳梗塞急性期から開始する筋萎縮阻止薬療法が慢性期運動機能に与える影響に関する研究	田中耕太郎	神経内科	800,000	厚生労働科学研究費補助金
抗リウマチ治療による軟骨破壊制御の基礎的、臨床的評価	木村友厚	整形外科	1,000千円	補 厚生労働科学研究費補助金
間葉系細胞分化制御と関節内移注による生物学的関節再建	木村友厚	整形外科	3,900千円	補 文部科学省科学研究費補助金
腰部脊柱管狭窄症に対する遺伝子治療の開発	金森昌彦	整形外科	700千円	補 文部科学省科学研究費補助金
RNAi法を利用した変性促進遺伝子を抑制する椎間板細胞移植治療法の開発	川口善治	整形外科	400千円	補 文部科学省科学研究費補助金
神経成長因子による腰痛発症の解明とその制御による治療法の開発	阿部由美子	整形外科	1,400千円	補 文部科学省科学研究費補助金
無頸動脈狭窄症に対する内科治療と外科治療(CEA/CAS)の無作為臨床試験	遠藤俊郎	脳神経外科	3,100千円	補 文部科学省科学研究費補助金
二分脊椎の発生病態と予防及び総合医療に関する研究	遠藤俊郎	脳神経外科	1,000千円	精神・神経疾患研究委託費
ヘリコバクター・ピロリ感染による胃発癌機序の解明と感染・再感染予防の研究	杉山敏郎	第3内科	800千円	厚生労働省がん研究助成金
植え込み型突然死防止装置の開発：呼吸統制による心不全治療	井上 博	第二内科	2,000,000	厚生労働省科学研究費補助金
心房細動血栓塞栓症の新しい予知、予防戦略に関する研究	井上 博	第二内科	2,000,000	車両競技公益資金記念財団
細胞内活性酸素増幅法による口腔癌細胞死の増強	和田重人	歯科口腔外科	2,300千円	科学研究費(基盤C)
前提機能異常に関する調査研究	渡辺行雄	耳鼻咽喉科	1,100	補 厚生労働省科学研究費補助金
耳石機能の左右差が放物線飛行時の自律神経症状(宇宙酔い症状)に及ぼす影響	渡辺行雄	耳鼻咽喉科	525	補 日本宇宙フォーラム

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人等から補助金の交付又は委託を受け行った研究の
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には主たる研究
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合には「補」に、委託の場合には「委」

(様式 11-B)

2 論文発表の実績 (平成19年度)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Cardiovasc Electrophysiol 18:765-772, 2007	Bepriidil reverses atrial electrical remodeling and L-type calcium channel downregulation in a canine model of persistent atrial tachycardia	Nishida K, et al	第2内科
Circulation 115:310-318, 2007	Model-dependent effects of the gap junction conduction-enhancing antiarrhythmic peptide rotigaptide (AP123) on experimental atrial	Shiroshita-Takeshita A, Sakabe M, et al	第2内科
J Cardiovasc Pharmacol 50:187-194, 2007	Fadudil attenuates myocardial fibrosis in association with inhibition of monocyte/macrophage infiltration in the heart of DOCA/salt hypertensive	Ishimaru K, et al	第2内科
J. Gastroenterol 2007	Long-term outcomes of patients with metastatic gastric cancer after initial S-1 monotherapy	Hosokawa A., Sugiyama T	第3内科
J. Physiol. Gastrointest. Liver Physiol 2007	Hepatocyte growth factor promotes colonic epithelial regeneration via Akt signaling. Am.	Kanayama M., Takahara T., Yata	第3内科
Gastroenterology 2007	Pattern of transcription factor activation in Helicobacter pylori-infected Mongolian gerbils.	Kudo T.,	第3内科
Aliment. Pharmacol. Ther 2007	Japan Rabeprazole Study Group.: Rabeprazole-based eradication therapy for Helicobacter pylori: a large-scale, multicenter, randomized, double-blind study in Japan.	Sugiyama T	第3内科
Intern. Med 2007	Serum level of macrophage migration inhibitory factor in Helicobacter pylori-infected patients.	Sugiyama T.	第3内科
J. Med. Virol 2007	Kondo S. and Shiraki K.: Infection and direct injury in human hepatocyte explants and a hepatoblastoma cell line due to	Takahara T.,	第3内科
Modern. Pathol 2007	Immunoglobulin VH gene analysis in gastric MALT lymphomas.	Sugiyama T.	第3内科
Cytometry A 2007	Cell-microarray analysis of antigen-specific B cells; single cell analysis of antigen receptor expression and specificity.	Tajiri K., Tokimitsu Y.	第3内科
J. Gastroenterol 2007	Rebamipide Clinical Study Group.: Rebamipide, a gastro-protective and anti-inflammatory drug, promotes gastric ulcer healing following eradication therapy for Helicobacter pylori in	Sugiyama T	第3内科
Cytometry A 2007	Single lymphocyte analysis with a microwell-array chip.	Tokimitsu Y.,	第3内科
Biophys. Res. Comm 2007	HGF-MSP chimera protects kidneys from ischemia-reperfusion injury. Biochem.	Takahara T.	第3内科
Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol 2005	Human umbilical cord blood-derived cells differentiate into hepatocyte-like cells in the Fas-mediated liver injury model.	Nonome K., Takahara T	第3内科
Clin Exp Immune 2005	Transgenic over-expression of macrophage migration inhibitory factor renders mice markedly more susceptible to experimental colitis	Ohkawara T., Sugiyama T	第3内科
Scand J Gastroenterol 2005	Geranylgeranylacetone protects mice from dextran sulfate sodium-induced colitis	Ohkawara T., Sugiyama T	第3内科
Clin Exp Immune 2005	Macrophage migration inhibitory factor contributes to the development of acute dextran sulphate sodium-induced colitis in Toll-like receptor 4	Ohkawara T., Sugiyama T	第3内科
Histochemistry and Cell Biol 2005	Regulation of Toll-like receptor 4 expression in mouse colon macrophage migration inhibitory factor	Ohkawara T., Sugiyama T	第3内科

Clin Diag Lab Immun 2005	A strain-specific antigen in Japanese Helicobacter pylori recognized in sera of Japanese children	Okuda M., Sugiyama T	第3内科
J Infect Chemother 2005	In vitro induction of resistance to metronidazole and analysis of mutations in rdxA and frxA genes from H. pylori isolates	Perez A.L., Sugiyama T	第3内科
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医研修講習会テキスト(東部支部企画)J, 社団	サイトカインと皮膚疾患	清水忠道	皮膚科
J. Trad. Med., 24:168-170, 2007.	Keishibukuryogan (Gui-Zhi-Fu-Ling-Wan), a Kampo formula decreases the disease activity and the level of serum thymus and activation-regulated chemokine (TARC) in patients with atopic dermatitis	Makino T., Fuiruichi M., Watanabe H., Yoshihisa Y., and Shimizu T.:	皮膚科
富山大学医学会誌, 17(1):1-4, 2006(2007年発行).	炎症性皮膚疾患の新しい治療の開発を目指して	清水忠道	皮膚科
Neuroimage 34: 235-242, 2007(2007年1月1日)	Multivariate voxel-based morphometry successfully differentiates schizophrenia patients from healthy controls.	川崎康弘ほか	附属病院
小児の脳神経 32:281-284, 2007	割髄症の治療転帰に関する検討	浜田秀雄, 林 央周, 梅村公子, 黒崎邦和, 栗本昌紀, Pirerre-Kahn A.,	脳神経外科
Neurol Med Chir 47:572-575, 2007	Basal encephalocele associated with hypoplasia of the internal carotid artery	Hasegawa S., Hayashi N., Kubo M., Hamada H., Kuwayama N., Shojiku H., Akai T., Endo S.	脳神経外科
小児科診療 70(9):1457-1463	神経内視鏡手術の進歩	林 央周, 浜田秀雄, 遠藤俊郎	脳神経外科
脳神経外科速報 17(10):1134-1143	内視鏡手術による血腫除去	林央周	脳神経外科
AJNR 29:69-72, 2008	The impact of cavernous sinus drainage pattern on the results of venous sampling in patients with suspected cushing syndrome.	Hayashi N. Kurimoto M., Kubo M., Kuwayama N., Kurosaki K., Nagai S.,	脳神経外科
脳卒中の外科 36:163-167	高位頸動脈狭窄病変に対する頸動脈血栓内膜剥離術の問題点と手術手技	林 央周, 堀恵美子, 秋岡直樹, 松村内久, 栗本昌紀, 桑山直也, 遠藤俊郎	脳神経外科
Spine J 7: 273-279, 2007.	Adjacent segment disease following expansive lumbar laminoplasty.	Kawaguchi Y, et al.	整形外科
J Exp Clin Cancer Res 26: 277-280, 2007.	Acral myxoinflammatory fibroblastic sarcoma of the foot.	Yasuda T, et al.	整形外科
Int Med J 14: 247-252, 2007.	Thoracolumbar vertebroplasty using the spinal navigation system for the nonunion after osteoporotic compression fracture.	Kanamori M, et al.	整形外科
Spine 332: 551-556, 2007.	How does the ossification area of the posterior longitudinal ligament thicken following cervical laminoplasty?	Hori T, et al.	整形外科
J Biol Chem 28: 20728-20738, 2007.	Splicing factor 3b subunit 4 binds BMPR-1A and inhibits osteochondral cell differentiation.	Watanabe H, et al.	整形外科
Mol Asp Med, 28:192-209, 2007 April	The role of the immune system in preeclampsia	Saito S, et al	産婦人科
Cancer Science, 98:874-81, 2007 June	Expression of indoleamine 2, 3-dioxygenase and the recruitment of Foxp3-expressing regulatory T cells in the development and progression of uterine	Nakamura, et al	産婦人科

Semin Immunol Pathol 29:115-122, 2007 June	Regulatory T cells and regulatory natural killer (NK) cells play important roles in fetomaternal tolerance	Saito S, et al	産婦人科
Am J Reprod Immunol 58:235-254, 2007 September	What is the role of regulatory T cells in the success of implantation and early pregnancy?	Saito S, et al	産婦人科
J Reprod Immunol, 76:30-39, 2007, December	Inadequate tolerance induction may induce pre-eclampsia	Saito S, et al	産婦人科
J Reprod Immunol 77:14-22, 2008, January	The balance between cytotoxic NK cells and regulatory NK cells in human pregnancy	Saito S, et al	産婦人科
Free Radic Res 41:73-81, 2007	Gene expression in enhanced apoptosis of human lymphoma U937 cells treated with the combination of different free radical generators and hyperthermia.	Wada S, et al.	歯科口腔外科
J Jpn Soci Comp Aid Surg 9:37-42, 2007	Application of optic surgical navigation system using non-invasive registration for the treatment of oral disease.	Wada S, et al.	歯科口腔外科
Oral disease 13:193-197, 2007	Pulp ablation therapy by inductive heating-heat generation characteristics in pulp cavity.	Wada S, et al.	歯科口腔外科
Clinical Nuclear Medicine, 32: 275-278, 2007.	Positron emission tomography for predicting malignancy of sinonasal inverted papilloma.	Shojaku H, et al	耳鼻咽喉科
Eur J Neurol. 2008;15(3):295-300	Differential diagnosis of cerebral infarction using an algorithm combining atrial fibrillation and D-dimer level.	Dougu N, Takashima S, Sasahara E, Taguchi Y, Toyoda S, Hirai T,	神経内科
Internal Med 2007;46:1275-1276	Cerebral microbleeds identified by diffusion weighted MR imaging in a case of acute ischemic stroke	Taguchi Y, Takashima S, Hirano K, Dougu N, Toyoda S, Tanaka K	神経内科
Mov. Disorders 2007;22(8):1202-1203	Dose-responsive dystonia (Segawa Disease)-like disease accompanied by mental retardation: A case report	Nagata E, Kosakasi A, Tanaka K, Segawa M, Fujioka H, Shintaku H, Suzuki N	神経内科
J Neurosci Res. 2007;85(5):954-966	Restoration of FcγR/Fyn signaling repairs central nervous system demyelination	Seiwa C, Yamamoto M, Tanaka K, Fukutake M, Ueki T, Takeda S, Sakai R, Ishige A,	神経内科
Eur J Neurol. 2007; 14(4):464-466	Novel mutation of the Notch3 gene in a Japanese patient with CADASIL	Oki K, Nagata E, Ishiko A, Shimizu A, Tanaka K, Takahashi K,	神経内科
J. Biol. Chem., 2007, 282(35):25177-25181	Constitutive activation of TAK1 by HTLV-I Tax-dependent overexpression of TAB2 induces activation of JNK-ATF2 but not IKK-NF-κB	Suzuki S, Singhirunnusorn P, Mori A, Yamaoka S,	検査部
J. Cell Biol. 2007, 176(5):695-707	Notch signaling is necessary for epithelial growth arrest by TGF-β	Niimi H, Pardali K, Vanlandewijck M, Heldin C-H, Moustakas	検査部
血栓と循環 2007, 15: 126-133	血栓と循環の検査法。トロンビン生成目安としてのTATとfibrin monomer 測定法とその意義	北島 勲	検査部
臨床病理 2007, 55 (3): 262-271, 2007	病院検査室で実践できる分子病態検査法開発、転写因子活性化検査の臨床応用に向けて	北島 勲	検査部
臨床化学 2007, 36(3):249-250	NF-κB研究の新展開	北島 勲	検査部

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 小林 正
管理担当者氏名	経営企画情報部長 中川 肇 放射線部長 瀬戸 光 薬 剤 部 長 足立 伊佐雄 総務企画グループ長 佐藤 忠弘 医療サービスグループ長 日合 三雄 診療報酬対策グループ長 奥田 豊子 医療安全管理支援グループ長 中島 克俊

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		病院事務部医療サービスグループ、病院事務部診療報酬対策グループ、薬剤部、看護部及び放射線部	カルテ等（電子カルテを含む。）の病歴資料は、1患者1ファイル方式による永久一元番号で分類し、外来カルテは最終受診日から8年以上、入院カルテは退院日から10年以上の保存を原則としている。 また、エックス線写真は、1患者1ファイル方式で、最終使用日から8年間の保存を原則としている。 これらは、コンピュータによる集中管理を行っている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務企画グループ人事労務チーム	/
	高度の医療の提供の実績	診療報酬対策グループ	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務企画グループ病院運営企画チーム	
	高度の医療の研修の実績	総務企画グループ病院運営企画チーム	
	閲覧実績	総務企画グループ病院運営企画チーム	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービスグループ	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービスグループ及び薬剤部	
確保規則の第9条の2及び第3条の2の確保状況	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理支援グループ	/
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全管理支援グループ	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理支援グループ	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理支援グループ	

	1 条の 11 各号 に掲 げる 体制	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理支援グループ	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理支援グループ	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理支援グループ	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理支援グループ	
			保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	医療安全管理支援グループ	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療安全管理支援グループ	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全管理支援グループ	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理支援グループ	
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	医療安全管理支援グループ	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理支援グループ	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理支援グループ	
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理支援グループ	
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療安全管理支援グループ	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理支援グループ	

規則 第1 条の 11 各号 に掲 げる 体制 確保 の状 況	医療機器の保守点検 に関する計画の策定及 び保守点検の実施状況	医療安全管理支援 グループ	
	医療機器の安全使用 のために必要となる情 報の収集その他の医療 機器の安全使用を目的 とした改善のための方 策の実施状況	医療安全管理支援 グループ	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	総務企画グループ長 佐藤 忠弘
閲覧担当者氏名	総務企画グループ 病院運営企画チーム 波多野 貴大
閲覧の求めに応じる場所	総務企画グループ 病院運営企画チーム

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	66.2%	算定期間	平成19年4月1日～平成20年3月31日
算出根拠	A:紹介患者の数		7,064人
	B:他の病院又は診療所に紹介した患者の数		4,105人
	C:救急用自動車によって搬入された患者の数		1,304人
	D:初診の患者の数		14,740人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第 9 条の 2 3 及び第 1 条の 1 1 各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1名) ・ 無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1名) ・ 無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任 (1) 名 兼任 (15) 名 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. インシデントの収集・調査・分析、発生原因の究明及び防止対策に関すること。 2. 医療安全管理に係る病院内の巡視・点検・評価に関すること。 3. 医療安全管理に係る業務改善の提言・指導に関すること。 4. 医療安全管理に係る教育・研修・啓発に関すること。 5. 医療安全管理マニュアルに関すること。 6. その他の医療の安全管理に関すること。 	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院における安全管理に関する基本的考え方 2. 安全管理委員会その他の組織に関する基本事項 3. 医療に係る安全管理のための従業員に対する研修に関する基本方針 4. 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6. 医療従事者と患者様との間の情報の共有に関する基本方針 7. 患者様からの相談への対応に関する基本方針 8. その他医療安全の推進のための必要な基本方針 	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理方針の策定及び推進に関すること。 2. インシデントの報告に関すること。 3. 医療安全管理の教育及び研修に関すること。 4. 医療安全管理対策の検討及び医療安全管理マニュアル作成に関すること。 5. 医療の質向上への取組みに関すること。 6. 重大なインシデントに係る調査及び対策に関すること。 7. 医療事故対応の意思決定・報告・広報に関すること。 8. その他医療安全管理に関すること。 	
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <p>春季・秋季医療安全管理等研修会、インシデント事例検討会、リスクマネージャー会議、医療安全推進のための講演会、医薬品・医療機器安全使用のための研修会</p> 	
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有) 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理室の専任スタッフが、インシデント報告書を毎日チェックし、3b 以上の報告書など重要事例に関して GRM が事前に検証し、医療安全管理室長及び医療安全管理室ミーティングに報告し、同室長が特別事例調査会を開催し事実経過把握と事故調査委員会開催の是非を検討のうえ病院長に報告。 ・ 医療安全管理室ミーティングでは、インシデント報告のうち院内全体に関わる内容を中心に、システム的な問題の有無を検討し、改善策を医療安全管理委員会の承認を経て、全部署に周知する。 ・ 各部署においては、リスクマネージャーが中心となって、発生の背景や内容、予防対策について部署全体でカンファレンスを行う。(ローカルルールの作成及び検討) ・ リスクマネージャー会議と事例検討会において、当該期間に発生した事例のうち 2 事例を選択のうえ発表し、質疑応答形式でディスカッションを行う。 	

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策に関する基本的な考え方 2. 院内感染対策のための委員会等の組織に関する基本的事項 3. 院内感染対策のための病院従業員に対する研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針（通用時対応、緊急時対応） 6. 患者等に対する指針の回覧に関する基本方針 7. 病院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染予防対策の確立に関すること。 2. 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。 3. 感染予防の啓発及び教育に関すること。 4. 感染に係る事故等の疫学調査及び事後措置に関すること。 5. 感染予防対策の評価及び改善に関すること。 6. 感染予防対策に係る情報収集に関すること。 7. その他感染予防に関すること。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 9 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <p>看護部新入職員研修、中途採用者オリエンテーション、昇任副看護師長研修、看護力再開発講習会、感染予防対策講習会、感染対策研修会（委託業者）、育児休暇明け研修</p> 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内感染サーベイランスを実施し、データ分析・評価し、感染予防対策の見直し看護ケアの改善につなげる。 ・ 院内感染情報レポートを活用して、職員への情報提供を行う。 ・ 院内ラウンドを通して、感染防止技術の確認・指導を行う。 	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第5次医療法の改正について ・ 医薬品の業務手続書について ・ 医薬品安全使用について ・ 消毒薬及び抗菌薬について 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の採用・購入に関する事項 2. 医薬品の管理に関する事項 (麻薬等の管理方法等) 3. 患者の持参薬歴情報の収集方法、処方箋の記載方法 4. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 5. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 6. 他施設 (病院等、薬局等) との連携に関する事項 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>メーカーからの緊急連絡及び医薬品医療機器情報提供ホームページ等から情報収集し、必要な医薬品情報は、薬事ニュースの配布及び電子掲示板で情報提供。</p> <p>副作用による健康被害情報を病院長に報告のうえ、厚生労働省に報告。</p> 	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 8 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>主として、次の医療機器の安全使用のための研修を実施。</p> <p>人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置（AEDを除く）、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 (有 無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>使用者がチェックリストに基づく使用前、使用中、使用后点検を基本とする。さらに、使用部署もしくは医療機器管理センターで、器機の使用状況、程度に応じ、使用毎や年1回から4回程度の詳細点検を実施。また、一部の器機については、業者委託により、定期部品交換を含む詳細点検を実施。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>周知方法</p> <p>病院総合情報システムの掲示板で、電子化された添付文書等の掲示や、医療安全管理委員会からリスクマネージャー経由で、電子メールによる通知を行っている。</p> <p>また、不具合等に関する情報は、病院長等管理者に報告のうえ、厚生労働省に報告している。</p>	